

令和3年度のスタート

4月8日、深谷中学校の令和3年度が始まりました。始業式と入学式において、各学年の代表生徒から新年度に向けた素晴らしい決意の言葉が述べられましたので、その一部を紹介します。

令和3年度第1学期始業式 新学年への抱負 [今年は2つの学年が体育館に集まって始業式ができました]



2年生代表
深谷中学校に入学して1年が経ち、2年生となった私たちは、初めて後輩を迎え、先輩となります。私は、後輩が自然とついてきてくれる先輩になるために、「何事も、誰よりも真剣に取り組む」という目標を立てました。なぜなら、言葉で直接伝えることも大切ですが、真剣に取り組んでいる姿を見せれば、伝え方が下手でも、説明が上手くなくても、気持ちが伝わり、後輩はついてきてくれるからです。



特に真剣に取り組むことは部活動です。私が所属する剣道部は、2年生の女子が私を含め5人いますが、その全員が、中学校に入ってから剣道を始めました。そのため、確かな技術はなく課題もたくさんあり、これから入部してくる後輩に剣道の技術を教えられるかは正直不安です。しかし、私たちは1年間努力を積み重ねてきました。先輩にもたくさんのことを教わりました。その今までの努力や教えを無駄にせず、真剣な姿で部活動を引っ張っていきます。

また、部活動だけでなく学習も、今まで以上の取り組みをしていく必要があります。授業のペースが速くなり、将来の進路についても考え始めなければならない中で、部活動と学習を両立させるために、切り替えをしっかりと、集中力を高めることを意識します。自分に足りない力は何か、学習方法で工夫できる場所はあるかを探しながら、質の高い学習を目指します。

部活動や学習以外にも、委員会では、教える立場になります。昨年度はコロナウイルスの影響でなくなってしまい、私たちが経験できなかった行事でも、先輩としての行動を取らなければなりません。そういう中で支えてくれる一番大きな力は、友達だと思います。私たち緑学年のよいところは、男女問わず仲間と助け合いながら、自分たちの課題に本気で向き合えるところです。また、入学当初の課題であった、あいさつや返事、メリハリをつけた行動も、1年間を通して各クラスで意見を出し合い、様々な工夫を重ねることでできるようになりました。これからは、友達と助け合いながら、「自分たちが先輩として足りないところは何か」「今の自分たちがやるべきことは何か」を本気で考え、改善しながら、日々真剣に取り組んでいきます。

このように、自分たちのよいところを活かして、後輩が自然とついてきてくれる先輩になるために、何事も誰よりも真剣に取り組んでいきます。



3年生代表
私たち赤学年は、今日から最上級生となりました。最上級生である3年生は「深谷中学校の顔」としての自覚をもった行動をしていかなければなりません。

その自覚をもって、生活面では、これまでの行事や学校生活の中で身に付けてきた、自分たちで考えて行動できる「自治力」を活かして、積極的に行動していきたいです。昨年度はコロナ禍の中で、自然体験宿泊学習ができず、三大行事も中止や規模を縮小しての開催となりました。しかし、そうした状況にも対応することで、私たちは自分たちで考えて行動する力を磨いてきました。だからこそ、昨年度の経験を活かし、特に、私たちの中学校生活最後となる宿泊学習や三大行事を、私たちだからできる最高のものにしたと思っています。大きな行事はもちろん、日々の一つ一つのことに感謝し、赤学年の絆を発揮して全力で取り組んでいきたいと思っています。

次に学習面です。今年度は私たちにあって、義務教育最後の1年であり、一人一人がこれからの自分の未知に向かうために進路を決める1年になります。

自分の進路を選びその実現を果すためには、一人一人が自分客観的に見つけ、何をすべきかをしっかりと考えることが大切になってきます。受験生としての1年間には、辛いことや苦しいこともあると思います。しかし、自分の気持ちや希望にしっかりと向き合い、一人一人が希望進路の実現の強い意志をもつとともに、学年全体でまとまり赤学年として取り組むことで、辛さや苦しさもやり甲斐に換えていけると思います。

部活動では、6月にある学校総合体育大会に向けて、今までできていなかったことを見直し、チーム一丸となって練習に取り組んでいきたいです。昨年度は、練習できない日が多くありました。しかしその分、今私たちは練習できることに大きな喜びを感じています。最高学年として、後輩に技術だけでなく、心の優しさや強さ、困難を仲間と乗り越えていくことの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

深中生としての最後の1年を、あらゆる面で後輩の手本となる行動を示すことを意識し、尊敬される最高学年を目指していきます。これまでの深中での2年間で達成し身に付けてきたことを武器にして、様々なことに挑んでいく1年にしていきたいです。深中の最上級生であることを自覚し、何が足りないのかを考えて行動することで、私たちが一人の大人として生きていくための力をつけて卒業できるようにしましょう。

令和2年度入学式

新入生誓いの言葉



温かな春の訪れとともに、僕たち新入生138名は、深谷中学校の入学式を迎えることができました。

本日は、このような素晴らしい入学式を行っていただき、ありがとうございます。

今日から、僕たちは中学生です。新たな出会いへの期待や、深谷中学校の生徒となれた喜びを感じています。その一方、不安も少しあります。中学校では、勉強の内容も難しくなり、毎日部活動もあります。それらの両立ができるか心配ですが、自分の目標を決め、一つ一つ真剣に取り組み、充実した生活を送れるようにしたいです。

これからの中学校生活を送っていく中で、自分一人では乗り越えられない壁があり、自分一人だけでは得られない喜びもあると思います。そんな時には、ここにいる仲間たちと協力し、ともに分かち合い、成長していきたいと思っています。

今日は、中学校生活の第一歩です。それぞれ自分の思い描く理想の自分に近づくため、自分で考えて行動し、努力していきます。

これから、先生方、先輩方、保護者の皆様方に、まだまだ未熟な僕たちは、ご迷惑をおかけすることもあると思います。そんな僕たちを、温かく、時には厳しくご指導くださいますよう、よろしくお祈りします。

最後に、僕たちは、これからお世話になる方々への感謝の気持ちを忘れず、深谷中学校の生徒としての誇りと自覚をもち、夢に向かって努力することを約束し、誓いの言葉といたします。

歓迎の言葉



温かい日差しに包まれ、桜の花が満開となる季節となりました。春の訪れを感じるこの佳き日に、新たな一歩を踏み出す新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

今日という日を、皆さんはどんな気持ちで迎えたのでしょうか。新たな環境への期待が大きいと思いますが、それと同じように不安もあると思います。しかし、慣れない環境に不安を感じているのは、皆さんだけではありません。2年前の私も、新しい生活への期待よりも、不安や緊張の方が大きかったです。しかし、仲間と共に生活していくうちに、そうした気持ちは小さくなっていきました。また困ったときには先輩や先生方に助けてもらいながら、着実に中学校生活に慣れることができました。

これから始まる中学校での生活は、部活動が始まり、勉強は難しくなります。そして、授業時間も増え、年に5回の定期テストが行われます。部活動と勉強を両立することは簡単ではありません。様々な変化があり、最初は戸惑うことが多くあると思います。しかし心配することはありません。中学校の勉強も部活動も、小学校の時にやっていたことの延長線上にあるからです。勉強は、先生のお話をよく聞き、自分で考えながらノートを書き、意見を比べ合いながら自分の理解を深める。小学校のときとあまり変わりません。部活動も、小学校のクラブと似ています。一人一人が、上達のために一生懸命に取り組みます。

では、中学校では何が変わるのでしょうか。それは、生徒の自主性です。深谷中学校には、三大行事と呼ばれる「文化発表会」「体育祭」「音楽会」があります。小学校とは違い、先生方よりも、実行委員などが主体となって企画や運営を進めていき、生徒の手でよりよいものを創り上げていきます。しかし、急に「自主性」と言われても、何をすればよいか分からないと思います。そこで大切なことは、「変わろうとする意識」をもって生活していくことです。小さな変化でいいと思います。

例えば、今まで黒板を写していただけだったノートを、自分で見やすいようにまとめる。ただ雑巾で拭いていただけの掃除を、汚れている部分を探してきれいにするようにする。こうした小さな積み重ねを続けることで、自ら成長していくことができます。これが「自主性」につながっていくのです。

中学校生活は3年間。とても短いです。だから1日1日を大切に、多くのことを学び、経験し、実り多い3年間にしてください。そして、私たちとともに、これからの深谷中学校を築いていきましょう。